

そうじやの光



前橋市立
総社小学校
学校だより 10
平成30年12月21日

学校教育 具体目標 かしこく 心ゆたかで たくましい子

2学期終業式…「かがやくクラス」になれたか

81日間の2学期も本日で終業式を迎えました。2学期は運動会を始めとして、様々な行事が盛りだくさんの学期でした。どの子にも、その1つ1つに真剣に向き合い、総社小の目標である「かがやくクラス」をめざして、友達と助け合いながらがんばる姿が見られました。子どもたちにとってもやりがいのある、力のついた学期だったと思います。

11月末には、各クラスの「いじめ防止スローガン」の「振り返り」について発表がありました。クラスとしてよくできたところやこれからの課題を話し合えたこと、そして今後の取組についてしっかり確認できたことは大変良かったと思います。

物事を考えたり、振り返ったりするときには、「自分として」の目と「集団として」の目の両方を育てていく必要があります。「個」は「集団」の中で育ち、「集団」がさらに「個」を育て、磨いていくからです。「かがやく自分」+「かがやくクラス」になれているか。2学期のそれぞれの反省をもとに、3学期さらなる成長が見られることを期待しています。



あたたかな日差しの中で…

今年は暖冬と言われ、あたたかな日差しがたくさん感じられます。そんなある日の休み時間に、6年生が男女一緒に長縄とびの練習やボール遊びをしていました。6年生は小学校生活もあと3学期を残すのみとなります。まるで、去りゆく日々を惜しむかのように楽しそうに遊んでいました。また、鉄棒では1年生がみんなで自主的に練習しながら遊んでいました。きっと体育の学習を通して練習すればできるようになることを学んだのでしょう。子どもたちの遊ぶ姿は心をあたたかくしてくれます。



楽しみながら学んだ「総社かるた大会」！

11月27日の5校時に「総社かるた」大会を行いました。本番までに「総社タイム」を使ってみんなで練習してきましたので、どの班も接戦、熱戦が繰り広げられました。

「総社かるた」は、30年以上の歴史があり、現在で3代目になるそうです。3代目かるたは、平成24年度の6年生が絵を描き、140周年記念として作成されたそうです。読み札の裏の1



3代目かるた



真剣勝負！

枚1枚に詳細な説明が書かれていて、読むだけで地域の歴史や文化について知ることができます。「総社かるた」は、これからも守っていききたい総社小の素晴らしい宝です。

人権・命の大切さを学ぶ～保健委員会の取組から！

①世界エイズデーの取組

11月29日には、児童集会で保健委員さんが「エイズについて」わかりやすく発表し、差別や偏見をなくす気持ちを表すシンボルである手作りの「レッドリボン」を全校に配布してくれました。



②第2回運学校保健委員会

12月12日には、第2回学校保健委員会が開かれ、「ぼく、私にも救える命がある」というテーマで群馬PUSHの方を講師に「応急手当」の勉強をしました。4, 5, 6年生が救急の場面を想像しながら、意欲的に取り組んでいました。

145周年記念品ができました！

145周年を記念して「総社小オリジナル下敷き」を作成し、全校児童に配布しました。

表は上空から見た学校周辺と「AKIMOTOくん」の人文字、裏は児童と職員の集合写真です。(5月14日撮影)記念品としていつまでも大切にしてほしいと思います。



表



裏

風っ子新聞に掲載されました！

前号でお知らせしたとおり、10月31日に行われた「特別奉仕活動」の様子が、12月2日付け上毛新聞「風っ子新聞」に掲載されました。環境美化委員さんのぴかぴかの笑顔が印象的な記事になりました。保護者や地域の方のご協力のおかげで長く続いてきた活動です。これからも子どもたちの自主的な活動として続けていきたいと思ひます。ありがとうございました。



本の寄贈、ありがとうございました！

小畑作治様より「心に響く小さな5つの物語」6冊の寄贈がありました。

転入生の紹介

11月末に、高崎市より「土屋」さん(4年生)が転入しました。



〈 校長のつぶやき 〉～温故知新 「前橋の伝説百話」から～

過日前橋観光コンベンション協会から寄贈していただいた書籍に、「前橋の伝説百話」があります。前橋市の広報誌「広報まえばし」に昭和44年から掲載された地域の伝説や伝承話を集めたものです。編者は当時の前橋市秘書課長佐藤寅雄氏で、職責の傍ら熱心な取材を重ね、100回(満4年間)執筆されたそうです。

総社地区(当時)からは「蛇穴山」「元景寺の梅」「丸橋忠弥と総社」「羽階権現と天狗岩用水」「三十三枚田」の5話が上がられています。「蛇穴山」(古墳)の蛇は、蝦夷征伐で敗れた將軍の墓を守るために現れた大蛇のことであるとか、「元景寺の梅」は、かの秋元長朝侯が大阪夏の陣で敗れた淀君をかくまったときに、淀君が上野の原に植えた(植野となる)梅であるとか、大変興味深い話ばかりです。

もちろん伝説は事実と異なるとされていますが、その土地の人々の願いや祈り、郷土への深い愛情を感じることができます。編者も「あとがき」の中で「ふるさとの古いものを取り上げることでふるさとを見直し、愛着を持つ人が多くなれば、それが「新しさ」につながることになるのではないかと…」と述べています。まさに「温故知新」です。

子どもたちと「総社かるた」を楽しみながら、総社地区の歴史や伝説に心を揺さぶられ、学校教育の中で改めて「温故知新」の精神を大切にしていきたいと思ひました。

* このコーナーは、校長の考えを思いつまま連載します。皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。